

学生番号

氏名

次の下線部の接続構造を図示せよ。

① 何とかを説明するとき、われわれは必ず現実からなにがしかの距離をとらなければならない。(a)たとえば、② 友人のために自宅までの地図を描いてやることを考えてみよう。③ この場合にも、われわれはすでに「現実から一步離れている」。(b)つまり、④ 地図を描くということは、自分で彼を家まで連れて来ることとは違う。(c)むしろ、⑤ 現実そのものの街を彼とともに歩かないで済むところに、地図を描く効用があるのである。(d)また、⑥ そのような地図を描く際、われわれは自宅に辿り着くのに必要な道筋や目安を書き込むけれども、「余りに小さなこと」や「目安にならないこと」は書き入れない。⑦ この家には鯉を飼った池があるとか、この魚屋はめったにまけないとか、ここによく子供が遊んでいるといったことは書かないのである。同様に、⑧ 説明もまた、ただ事実そのものの事細かな記述ではない。⑨ 何を説明するかがまずあり、それにとって必要なことのみを詳述したものが説明なのである。

記号

付加: $A + B$

解説: $A = B$

論証: $A \rightarrow B$

例示: $A - \text{例 } B$

解答例と解説

(a) ① $- \text{例}$ (② ~ ⑦)

これは難しくないだろう。① で述べたことを地図を描くことという具体例を用いて解説しているのである。

(b) ③ $=$ (④ ~ ⑦)

③ $=$ ④ と答えてしまった人も居るだろう。しかし、④ はこの一文では完結してはおらず⑤ と合わせて一まとまりとなっている。更に、⑥ 以下も、④,⑤ とは別の側面から③ の解説をしているので、答えは上記のようになる。

(c) ④ $+$ ⑤

これも難しくはないであろう。

(a) (b) (c) (d) (e)

こうなる理由は (b) の解説で述べたとおりである。